

Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)



Niigata Award

ごあいさつ

第7回食の新潟国際賞 受賞者記念講演
令和5年 新春講演会のご案内

2023/1/18 第46号 第7回食の新潟国際賞受賞者記念講演特集号

2023年ごあいさつ



2023年の年頭にあたり御挨拶申し上げます。

日頃、当財団の運営や活動にご理解とご協力を頂き心から御礼を申し上げます。

さて昨年11月29日に「第7回 食の新潟国際賞」の表彰事業が多数の来賓と会員の御出席いただく中、滞りなく無事開催することができましたことに厚く御礼を申し上げます。

2022年はWithコロナ下での経済や日常生活の復活を模索しながらの日々でしたが、ロシアのウクライナ侵攻という世界の法秩序を揺るがす事態により、世界が食糧やエネルギーの危機に晒されという激動の1年でもありました。言うまでもなく、食は人間の生きる根源であり、食の新潟国際賞の掲げる「食と命」は普遍的な重要なテーマであり、改めて当財団の役割と使命について再認識する機会となりました。

あらためて国際賞を通じて世界の平和と人々の健康と発展に寄与したいという、設立当初からの理念に立ち返り事業を進めてまいりたいと考えております。

さて、今年は国際賞の冠である「佐野藤三郎氏の生誕100年」という記念すべき年です。関係団体と協力して記念事業を計画しておりますので是非ご参加いただきたいと思います。

また「第8回 食の新潟国際賞」の推薦募集の年でもあり、世界各国から多くの推薦をいただくともに、この記念事業を通じて佐野藤三郎氏の偉業を国内外に伝え、地域の新しい発展につなげてゆきたいと考えております。

皆様には引き続き財団並びに国際賞に対するご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

今年が皆さまにとって幸福で御発展の年となりますよう心からご祈念申し上げます。

公益財団法人 食の新潟国際賞財団
理事長 池田 弘

第7回食の新潟国際賞 受賞者記念講演

| 大 賞 | ジョゼ・グラジアノ・ダ・シルバ 氏

国連食糧農業機関（F A O）前事務局長／ゼロハンガー研究所 所長

私は、ブラジルで食料安全保障・飢餓撲滅特命大臣としてゼロハンガー運動を計画、実行しました。社会や経済に関する政策と地域の飢餓対策を結び付けた運動により、2007年までの5年間で慢性的な栄養失調は10%以上から5%以下に減少。14年にブラジルは国連食糧農業機関（F A O）のハンガーマップから外れ、21世紀で初めて飢餓を撲滅した国になりました。

事務局長を2期務めたF A Oでも、ラテンアメリカやアフリカなどで飢餓をなくす取り組みを実施。15年にゼロハンガー運動をモデル事例として、国連が制定した「S D G s（持続可能な開発目標）」に、目標2「飢餓をゼロに」が盛り込まれました。

飢餓ゼロ達成には、全ての人に安全で健康的な食料がいきわたり、毎日手に入ることが重要。現状の食料システムを改良し、人々が継続的に、安全かつ健康的な食料を入手できる仕組みにすべきです。

S D G sの17の目標は、全て飢えと貧困をなくすことにつながっています。飢えの背景には貧しくて食料が手に入らない状況が大きく関与しています。同様に、肥満の背景には体に良い食品が高価すぎて買えない状況が近年増加しており、そのために所得水準に関わらず全ての国で肥満が急増しています。



現在、8億人以上の人々が飢餓状態にあり、30億人以上の人々が健康的な食事を取る余裕がありません。世界的に食料システムを変え、食生活を大幅に改善させることで肥満を防ぎ、あらゆる形の栄養失調をなくすべきです。日本は昔から肥満気味の人が少ない国で、新潟は世界的に有名な米どころですが、新潟も例外ではありません。協力しましょう。安全で栄養価の高い食料を誰もが手に入れられる世界をつくるのです。

本賞賞金は全てゼロハンガー研究所に寄付し、世界中から飢餓をなくし、誰もが持続できる健康的な食料を生み出すシステムをつくるつもりです。

| 大 賞 | 中村 丁次 氏

公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 学長
公益社団法人日本栄養士会 代表理事会長

日本人が健康で世界一の長寿を維持している背景には、保険制度や医療などさまざまな要因がありますが、最も底辺を支えてきた要因は食事ではないでしょうか。明治維新以前の日本人の平均寿命は50歳で、当時の人々は低栄養で栄養欠乏症に悩まされていました。この150年の間に、健康的な食事を作るために多くの人が大変な努力をしてきたのです。明治期には日本の栄養学を創始した佐伯矩（さいき・ただす）博士が、アジアで初めて栄養士の制度をつくりました。養成校も立ち上げた結果、国は栄養改善法を制定。栄養士は幼稚園、学校、企業、自衛隊など広く配置され、現在は100万人もの栄養士がおり、こんな国は世界にありません。

戦後は世界で初めて全ての子どもに向けた学校給食を導入。栄養士が健康的な食事の情報を載せた給食便りを作ることで、家庭の食事も変化していきました。誰も取り残すことなく、健康な食事と栄養の情報にアクセスできる社会をつくったことは日本の特徴であり、私はジャパン・ニュートリションと呼んでいます。

食事の欧米化もあり、日本人の栄養状態は急速に改善されていきました。一方で1980年頃から動物性食品の摂取量が横ばいになり、食事の欧米化が止まりました。その結果、現在の日本では糖尿病や肥満の増加にブレーキがかかりつつあります。



これは世界的に前例がなく、日本の長寿国化の原点になっており、環境負荷の面からも、持続可能で健康的な食事のあり方に一石を投じています。

私はジャパン・ニュートリションを世界に発信し、アジアの人々の栄養改善をするために専門家による会議や組織、教育機関を立ち上げ、指導者養成に取り組んでいます。

2021年12月には「東京栄養サミット」で岸田文雄総理が「栄養の力で人々を健康に、幸せにする」という私の言葉を引用し、今後3千億円以上の栄養に関する支援を表明しました。外交政策としても栄養を重要視するなど、国家が栄養政策にしっかりと取り組む必要があるでしょう。

| 佐野藤三郎特別賞 | 中山 輝也 氏 株式会社キタック 代表取締役会長

佐野さんの誘いで加わった中国黒竜江省の三江平原プロジェクトで、佐野さんと時間を共にする中でさまざまな助言をいただき、まさに「人生の師」に出会ったようでした。

当時の中国は文化大革命直後で、農業、工業、国防、科学技術の近代化が目標。農業に関しては、中国政府の求めに応じ、亀田郷土地改良区で農地の基盤整備などに尽力してきた佐野さんを中心に三江平原農業基本建設考察団が組織され、私もダムと地質の専門家として誘われ参加。これが、その後40年以上に及ぶ中国との交流の原点となりました。

プロジェクトでは、竜頭橋ダム建設の申請がなかなか出されず、佐野さんが中国政府や日本政府などに働きかけ、1994年に日中高級事務レベル協議で円借款が付きしました。設計から約10年かかりました。98年着工、2002年の完成により、三江平原は食糧生産基地へと発展しました。

佐野さんはみんな平等という意識を常に持っていて、中国政府要人相手でも正しいと思ったら妥協しない。中国側は好感を持ち信頼しました。



また、「遠い国より近隣諸国」という発想の持ち主で、私もその考えに従い地域間交流に取り組んできました。国家レベルの交流をサッカーボールで例えると、（接した二つのボールの間に）大きな隙間ができる。そこを補う小さなボールが、私たちがしている地域間や民間などの交流です。今後も技術協力を通じて、北東アジアの拠点としての新潟の地位を守りたいです。

| 21世紀希望賞 | 齋藤 和樹 氏 アフリカライスセンター主席研究員

胎内市の農家生まれで、両親が作ったおいしいお米で育ち、今回の受賞は大変光栄に思っております。

私は食糧危機に絶えず直面するアフリカの稲作の問題を、作物学的立場から解決するために15年以上研究してきました。

アフリカは過去20年間で米の消費が50%増加し、消費の40%を輸入。アフリカ各国の政府、開発援助機関などが米の自給率向上へ向けて稲作の支援を行っています。私は2006年からアフリカライスセンターでイネの新育種材料の同定・選抜方法の研究を開始しました。その後、13年から4年間、作物学の研究ネットワーク事業を管理して、アフリカ各地で調査や実験を行いました。

17年に始まった世界稲作研究プログラムのプロジェクト「Sustainable Farming Systems」ではリーダーとして、稲作を中心とした営農システムの集約化・多角化に着目。



アフリカ、アジア、ラテンアメリカでの同プロジェクトの研究活動を管理し、開発した技術は少しずつ農民の手に届きつつあります。

世界に通用する日本人研究者の育成にも力を入れながら、引き続き農業研究・技術開発を通じて、世界の食糧生産・供給に貢献していきたいと思っています。

| 地域未来賞 | 伊藤 親臣 氏

株式会社SnowBiz 代表取締役

雪はエネルギーとして非常に有能です。国内全降雪量の0・2%の雪利用をすると100万キロワット発電所（原発1基）15カ所分のエネルギーに相当します。2000年に上越市（旧安塚町）の財団法人雪だるま財団に入り、雪の活用に力を入れていた矢野学町長（当時）とともに国に働き掛け、02年に雪は純国産の毎年再生される資源として認められました。

現在は、株式会社SnowBizを設立し、新潟の雪を使い、県内企業の経済活動につながる方法を探り、雪を利用した低温貯蔵庫や、雪室に貯蔵した食品の製品化に取り組んでいます。雪室が食品に与える効果は四つあると考えます。野菜が寒さから身を守ろうと糖を分泌する「低温順化（低温糖化）」や「鮮度維持」「酸化防止」のほか低温環境では風味がまろやかになる「分子会合の変化」があります。これらの雪室効果を活用した食品はお酒やコーヒーなど100種類を超えており、海外にも発信しています。



また雪室は自然災害で電気が止まっても冷却が可能で食糧や医薬品の備蓄などにも応用できると考えます。まだまだ雪のエネルギーには可能性があると思います。

公益財団法人 食の新潟国際賞財団 令和5年 新春講演会

佐野藤三郎氏生誕100周年記念事業

「佐野藤三郎の足跡と未来へのメッセージ」

2023年は新潟市の農業・農村・国際交流・都市基盤整備などの多くの分野においてその基礎づくりと発展に大きく貢献した佐野藤三郎氏の生誕100周年にあたります。

食の新潟国際賞財団では佐野氏の偉業を多くの方々から知っていただき、継承するため、その足跡を辿り、佐野氏が私達に託したメッセージを確認し前に進めるため、関係団体の皆さまと協力して記念事業を実施してまいります。

今回の新春講演会はそのオープニング事業として開催いたします。

是非、多くの皆さまからご聴講頂きますようご案内いたします。

日時 2023年 2月 10日(金) 14:00～16:20

会場 ホテル イタリア軒 3階 サンマルコ (新潟市中央区西堀通7番町1574)

定員 80名 (先着順・無料)

《 1. 基調講演 》



「佐野藤三郎 その仕事と人脈」

望月 迪洋 氏 「新潟研究」事務所 主宰

1946年8月、佐渡市梅津生まれ。両津高校、早大商学部から69年4月、新潟日報入社。編集局報道部で主に経済畑の取材を担当し、東京報道部長、本社報道第二部長、編集委員室長などを経て2007年に定年退職。同年4月、新潟市都市政策研究所主任研究員。10年から非常勤嘱託の政策調整監。

《 2. 座談会 「佐野藤三郎さん…ともにかいた汗の記憶」 》

司会： 望月 迪洋 氏

パネリスト：中山輝也氏、杉本克己氏、伊藤忠雄氏



中山 輝也 氏

株式会社キタック
代表取締役会長

1973年(株)キタックを設立。1979年佐野ミッション(三
江平原農業基本建設考察団)で中国へ。以降1983年
まで同プロジェクトに加わる。

1989年佐野氏の要請でNPO法人新潟県対外科学技
術交流協会を設立。以降黒竜江省への民生インフラ
技術協力に携わる。その間、合併・独資会社を設立。
2007年モンゴル国名誉領事後、NPO法人新潟県対
外科学技術交流協会を通じ経済技術協力に関わり、
砂漠緑化などいくつかの技術プロジェクトが完了、ま
たは進行中。

2022年、第7回食の新潟国際賞佐野藤三郎特別賞
受賞。



杉本 克己 氏

亀田郷土地改良区
理事長

1971年、新潟県立興農館高等学校を卒業し、
自営農業に従事する。

1976年に農民交流第1次亀田郷友好訪中団に
参加し、佐野藤三郎氏との親交が始まる。

2008年、亀田郷土地改良区総代に就任。

2017年、亀田郷土地改良区理事に就任。

2019年、亀田郷土地改良区理事長に就任。



伊藤 忠雄 氏

新潟大学 名誉教授

1944年新潟市生まれ。1967年新潟大学農学
部卒業。

1991年新潟大学農学部教授、2004～2008年新
潟大学理事・副学長、2010年新潟大学名誉教授
。2012～2015年放送大学特任教授(新潟学習セ
ンター所長)。

亀田郷に関する著作(共著)には『水と土と農民
～亀田郷土地改良史～』『写真集 水と土と農民
』『亀田郷の農業』『鳥屋野の土地改良』『水と土
と農民 '87』『創立60周年記念誌 水と土と農民』
などがある。

主 催 公益財団法人 食の新潟国際賞財団

お問合せ 公益財団法人 食の新潟国際賞財団 事務局 (〒951-8063 新潟市中央区古町7番町1010番地)

電話：025-201-8901 FAX：025-201-8902 メール：info@niigata-award.jp

ホームページ：https://www.niigata-award.jp



Niigata Award

公益財団法人 食の新潟国際賞財団

令和5年 新春講演会

お 申 込 書

日時 2023年2月10日（金）14：00～16：20

会場 ホテル イタリア件 3階 サンマルコ（入場無料）

お申込み方法

- 必要事項（氏名・所属・住所・電話番号）を記入して2023年2月7日（火）までにEメール（info@niigata-award.jp）にてお申込みください。FAXでのお申込みも受付けております（下記お申し込み記入欄）。
- 先着80名で定員になり次第、締切とさせていただきます。超過の場合のみご連絡いたします。
- 入場整理券は発行いたしません。当日直接会場受付へお越しください（13時30分～受付開始）。
- ご記入いただいた個人情報は、当財団主催事業の開催のご紹介などに使用させていただきます。

新型コロナウイルス感染拡大防止へのご協力をお願いいたします

- ご入場時の検温（非接触型体温計にて実施）、手指の消毒等にご協力ください。
- 発熱や咳・咽頭痛などの症状のある方、体調に不安がある方はご来場をお控えください。
- 講演中を含め会場内ではマスクの着用をお願いいたします。マスクはご自身でご持参ください。
- 社会情勢の変化により、講演会の変更または中止する場合がありますので、今後の情報に十分ご注意ください。

FAX用 お申し込み記入欄

個人・会社・団体名 (必須)			
住所 (必須)	〒		
電話番号 (必須)		FAX	
メールアドレス			
参加者氏名 (会社・団体の方は必須、複数可)	所属・役職 (会社・団体の方は必須、複数可)		

お問合せ 公益財団法人 食の新潟国際賞財団 事務局（〒951-8063 新潟市中央区古町7番町1010番地）
電話：025-201-8901 FAX：025-201-8902 メール：info@niigata-award.jp
ホームページ：https://www.niigata-award.jp

※「食の新潟国際賞」は新潟市の補助金を受けて実施しています。

公益財団法人 食の新潟国際賞財団 賛助会員

(令和4年12月現在)

(敬称略・順不同)

● 特別会員

亀田製菓(株)
一正蒲鉾(株)
(株)第四北越銀行
(株)新潟日報社
亀田商工会議所
にいがた22の会

(株)ブルボン
サトウ食品(株)
(株)栗山米菓
(株)新宣
(株)新潟クボタ
(株)日本食糧新聞社

(学)新潟総合学園
新潟県農業協同組合中央会
亀田郷土地改良区
(株)エイケイ
NST新潟総合テレビ
五十嵐建設工業(株)

● 正会員

新潟市農業協同組合
新潟県信用組合
(株)第一印刷所
(株)本間組
石本酒造(株)
(株)ミカサ
神山物産(株)
ハセガワ化成工業(株)
藤屋段ボール(株)
(株)タケショー
(株)新潟博報堂
BSN新潟放送
新潟陸運(株)
(株)新潟食品運輸
月島食品工業(株)
(株)ニッポン関東支店

日本甜菜製糖(株)
(株)鳥梅
新潟工科大学産学交流会
(株)キタック
北越工業(株)
丸榮製粉(株)
鍋林(株)ヘルスフーズ事業部
TeNYテレビ新潟放送網
(株)栗田工務店
三和薬品(株)
松田産業(株)
セッツカートン(株)新潟工場
東邦産業(株)
麒麟山酒造(株)
(株)加島屋
(株)日本フードリンク

(株)ディモルギア
UX新潟テレビ21
イカリ消毒(株)
新潟工科大学
(株)日本旅行新潟支店
(株)田中組
(医)愛仁会 亀田第一病院
(株)ひらせいホームセンター
ワタキューセイモア(株) 新潟営業所
(株)エヌエスアイ
(株)トップライズ
(株)ウオシヨク
(株)ヤマダ
(株)新潟国際貿易ターミナル
八海醸造(株)
(株)荏原製作所 北陸支社

● 個人会員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	高畑 昭文	廣瀬 利雄	山口 勉	高橋 常考	田村 敏郎
杉本 克己	近藤 鴻	大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一	古口 日出男	坂田 武利	門脇 基二
大谷 勝男	佐藤 久栄	田中 敏明	青木 清	阿部 徳威	佐藤 勉	佐藤 清一	野上 文彰
板井 茂	浅井 善広	清水 良一	田中 作一	新保 房機	古泉 榮三	佐藤 純	倉嶋 則昭
塚本 太一	大越 斎	野口 正晴	酒井 定勝	齋藤 秀明	松本 裕志	當野 篤	高山 利夫
久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修	望月 健三郎	山田 雄治	鈴木 正二	竹石 松次
古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一	渡邊 信也	宇野 勝雄	赤塚 義廣	坂井 俊一
鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子	齋藤 博文	齋藤 幸広	田辺 俊文	小田 静二
渡邊 徹	中村 好彦	栗田 浩	栗田 朋子	阿部 文仁	高尾 茂典	五十嵐 豊	久代 勝英
古泉 幸一	加藤 純子	高倉 広利	清水 泰成	中野 節子	阿部 愛子	大島 照美子	宮口 澄子
青木 太華子	佐藤 金治郎	五十嵐 康子	五十嵐 早苗	佐藤 文男	高橋 征男	高橋 克郎	田村 泰生
山崎 尉生	中村 雪絵	村山 浩太郎	稲葉 晋	川崎 千春	秋山 正之	松川 忠史	濱野 剛
小川 善弘	池田 祥護	星野 幸三	糸満 盛人	伊豆 智	小林 哲也	岡田 茂久	遠山 幸男
小野 隆樹	大橋 祐貴	前田 穰	桐原 隆晃	長井 基樹	岸田 良満	中村 健一	小林 宏志
柳澤 敏郎	遠藤 俊介	葉葦 正幸	津島 章彦	舟崎 義朗	小川 陽一	大日方 聡	宮下 好文
坂田 浩一	田中 雅史	藤間 佑輔	品田 卓也	渋谷 政道	村山 雄亮	北爪 文義	近藤 正
高橋 佑	荒井 弘美	重泉 篤史	本間 康弘	中野 克之	高橋 誉	最上 正人	石田 勇介
佐藤 正尚	下條 幸二	廣川 正通	小谷 尚志	高橋 道映	田中 弼	佐藤 浩晃	村山 和恵
小林 達	佐藤 善昭	酒井 栄一郎	佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也	杉谷 浩一	佐々木 一
金田 季之	宮島 泰	高崎 俊哉	小平 勝志	藤田 正明	池田 一史	宮嶋 一博	小嶋 孝代
渡邊 雄一郎	駒形 正明	阿部 貴美	大沼 成勝	丸山 智史	岡田 龍	小野 隆樹	田邊 威
高橋 大介	伊藤 雅明	秋堂 春美	田中 義夫	長谷川 克弥	山口 穰	田中 湖雄	牧 利幸

「食の新潟国際賞」は新潟市の補助金を受けて実施しています。